

柿原工業ウェブサイトの楽しみ方

初期育成Gr.佐藤

みなさん、柿原工業のウェブサイトを見たことはありますか？わざわざ自分の勤めている会社のウェブサイトを見る機会ってあまりないかもしれませんが、見てみると結構面白いものです。柿原工業のウェブサイトは意外にと言っては失礼ですが、とても立派で、面白いので、みなさんもちょくちょく見てみることをお勧めします。

友人や親兄弟、子供などに見られても全く恥ずかしくない仕上がりだと思います。

オンラインショップへの入り口もありますし、モデルさんを使ったイメージ動画も見られます。



Kakiharaのニューブランド「Lumika+（ルミカプラス）」は、高級車の内外装に用いられるメタライジング技術を活かし、日常に上質な輝きを添えるライフスタイルブランドです。

[オンラインショップはこちら](#)

ウェブサイトを見て一番の良い事は『自分の勤めている会社が何をやっているかがわかる』ということだと思います。自分が担当している仕事についてはみなさんよく知っていると思いますが、前工程・後工程・会社全体でどういった部門がどういったことをやっているかまでは把握できていない人も多いのではないのでしょうか？そう言った時にウェブサイトを見れば簡単に概要が分かります。金型ってなに？成形ってなに？金属めっきと樹脂めっきって何が違うの？などなどの雰囲気が分かります。さらに詳しく知りたい時は、【コラム】に少し技術的な解説記事などもあります。

また、ウェブサイトを見ることで、柿原工業の”推し技術”も分かります。トップページに出てくる画像を見ていると、会社はこの方向に力を入れていくんだな～と漠然とは伝わるとと思います。



電磁波シールドについて

© 2024-10-08 | 電めっきの仕組み

電磁波シールド（EMI シールド）：塗料とめっき、鉄板の効果的な選択...



部分めっきと2色成形について...

© 2024-03-28 | 電めっきの話

特定の箇所にのみめっきを施す！部分めっきとは。樹脂めっきは通常、全...



めっきに不向きな形状とそのワケとは？...

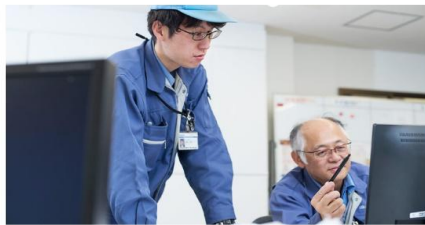
© 2023-12-08 | 電めっきの仕組み

めっきには苦手な形状がある？『この形状ではめっきが付かない』と思いま...

そして、ウェブサイトの一番の楽しみ方は、知っている人探しです。今活躍しているあの人やこの人が、少し若々しい姿で、すまし顔で登場しているのを見つけてみて下さい。ちょっとニヤッとしてしまいます。ベテランの人は懐かしく、若手の人は新鮮な気持ちで、身近な人を探してみてください。

昨今（少し前ですが）、社内で『活き活きど』なる言葉が広がっているのを聞いたことがある人もいるかと思います。これはストレスを減らし、前向きな気持ちで仕事に取り組める環境を作っていくものと理解しています。その第一歩として、ウェブサイトを通じて自分の勤めている会社について学んでみる事も良いのではないかと思います。たまに見てみると立派さに驚き、内容もきっと面白いと思いますよ。

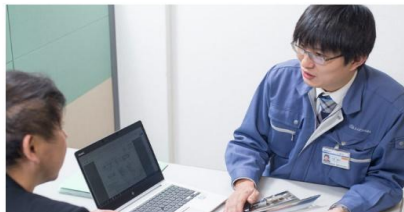
品質重視の生産管理



Kakiharaブランドとして相応しい品質を目指す。

例えば、高い信頼性が求められる産業用機器の海外向け自動車部品。出荷される製品がお客様の要望をクリアしているか、主要な部品がKakiharaブランドとして高い品質であるかどうかを厳密に確認した上で、すべての部品を出荷しています。また、環境安全も品質の一部と考え、排水の徹底処理も実施しています。

営業技術



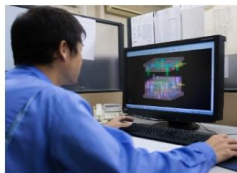
技術提案を行い、設計・量産・納品までをコントロール。

お客様の窓口として様々な技術提案を行うのが営業技術部門です。今までに蓄積した最先端技術と研究開発によってストックした新技術をもとに、具体的なアドバイスや新しい提案を行いながら、ご要望をカタチにしています。



海外業務

海外クライアント・海外拠点の窓口として調整業務や貿易業務も行います。英語やタイ語に対応できる人が活躍しています。



金型

品質を決定づける一貫生産のベースとなる金型を設計・製造。最新鋭のCAD/CAM/CAEシステムと高精度のNC工作機械群で短納期・高精度の金型製造に取り組みます。



成形

エンブラ、スーパーエンブラなどの素材成形において、射出方法や成形条件の検討・試作を行い、量産化へ。軽量化、外観の美しい仕上がり、密着性、不良低減などがテーマです。



めっき



塗装



検査



樹脂成形で追求するテーマは、軽量化、強度アップ、コストダウン、より美しい仕上がりなど様々。さらに、めっきを樹脂化する樹脂成形は難度が高く、蓄積した技術力と技術者たちのチャレンジ精神の賜物です。Kakiharaの技術力、その技術が育まれる社風について、試作担当の二人が語ります。



信頼性の高い化学めっきプロセスを開発。

バンパーやラジエーターグリルなどの大型製品から、ハンドルやエンブレムなどの小型製品まで、多種多様な要求に応えるため、最新鋭の設備を揃えるKakihara、日本有数の全自動樹脂めっきラインを4ライン開発し、